

会議録【要旨】

会議名	平成27年度(2015年度)第2回箕面市子ども・子育て会議					
開催日時	平成27年(2015年)10月8日(木)17時30分～19時30分					
開催場所	箕面市役所 本館3階 委員会室					
出席者	委員	吉永委員	田中委員	吉田委員	松木委員	廣瀬委員
		工藤(可)委員				
		[欠席]	工藤(英)委員	井上委員	宗形委員	北島委員
	事務局	子ども未来創造局：大橋局長、木村担当部長、小西副部長、半沢副理事、稲野副理事、柴田課長、西尾課長、今中室長、村田室長、松尾、巢組				
傍聴者	1名					
会議次第	I 開会 II 案件 【案件1】第三次箕面市ひとり親家庭等自立促進計画について 【案件2】箕面市新子どもプラン（箕面市次世代育成支援対策行動計画（後期計画））の目標指標と達成状況について その他 III 閉会					
主な内容は次のとおり。 I 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況等の報告、配布資料の説明・確認 ・案件順序の変更 II 案件 <p>【案件2】箕面市新子どもプラン（箕面市次世代育成支援対策行動計画（後期計画））の目標指標と達成状況について</p> <p>案件2について、資料2「箕面市新子どもプラン（箕面市次世代育成支援対策行動計画（後期計画））の目標指標と達成状況について」に基づいて事務局より説明</p> <p>会 長：結果を踏まえて、第三次箕面市子どもプランの成果指標についてどう考えているか。</p> <p>事務局：子ども・子育て支援法において、数値で示すものが決まっている。それ以外についてどのように計るかは検討中である。</p> <p>委 員：国の方向としては保育の量などに焦点が当たっているが、今まで取ってき</p>						

たデータの中には、継続して調査すべきものもあるのではないかと。

委員：不登校対策については、不登校の児童・生徒数が指標となっている。支援としては不登校の生徒へのケアやフォロー、適応指導が主だが、その生徒を取り巻く環境など、学校に来られなくなっている原因に対しては何か行っているか。

事務局：平成23年度から箕面子どもステップアップ調査を実施して、子どもたちの学力・体力・生活状況を毎年、全学年について調査しており、その中で学級環境の調査・分析も行っている。また、学力保障・学習支援のための学生サポーターの派遣も行っているところである。

会長：先ほどの委員の意見は、不登校の児童生徒の人数を指標にした場合に、単に「数字でゼロを目指す」だけでなく、不登校の背景や状況を受け止めて、その子どもの最善の利益をはかる視点に立った取り組みが大切、という問題提起だ。ぜひこれを受け止めて、そうした子ども支援の視点を反映できる、箕面市としての指標設定が必要である。

【案件1】第三次箕面市ひとり親家庭等自立促進計画について

案件1について、資料1「第三次箕面市ひとり親家庭等自立促進計画について」に基づいて事務局より説明

会長：第二次計画まではひとり親家庭の経済的自立を目指すものだったが、第三次は「子ども支援」の視点も入るという理解でいいか。

事務局：今までは、財政的支援や親の就労支援などが主な内容だった。親を通じて子どもを支援してきたのが、直接子どもへ届く支援へと考えている。

委員：子どものニーズ把握は行っているのか。

事務局：たとえば学校が子どものニーズをつかむことはあるかもしれないが、現状の事業としては行えていない。直接子どもが相談できる窓口があってもいいかと思う。

委員：全体として、ひとり親家庭を支援する制度の認知度が低いと思う。地域や民間で支援するような窓口はあるのか。

事務局：地域でいえば民生委員等が挙げられるが、認知度が低いのが課題。相談窓口で言えば、離婚届を受けたときに相談窓口へ回ってもらうようにアナウンスは行っている。

委員：箕面市ではないが、中学生が大きな事件に巻き込まれた。もっと行政や地域が事前に踏み込めなかったのかと思う。

委員：貧困の連鎖防止に向けて、現在はどうのような取組を行っているのか。

事務局：学習支援について学生サポーターの派遣を行っているが、子どもの就労支援についてもハローワークと連携するなどの対応が必要と考えている。

委員：子どもの困っていることとして、健康や食事といった部分もあるので、そ

の辺りも支援できたらと思う。

会 長：子ども支援というのは、単一の事業だけでは効果を発揮しにくい。親の子育て支援とともに子どもの育ちを直接支援する施策も必要。さまざまな子ども施策を総合的、横断的に組み合わせていくことが大切だ。

委 員：子どもに届く施策を打つには、子どものニーズや思いをくみ取る必要がある。国の政策展開の中に、子どものニーズを把握しているものはあるか。

事務局：周りから支援するものが中心だったように思う。

委 員：ひとり親を支援する活動を行うNPOなど、策定前に当事者の声を聞くことが必要ではないか。

委 員：阪大の学生が中心となって子どもたちの学習支援をしているNPOがある。子どもがどのように思っているかなど、そこに一度聞き取りをしたらどうか。また、この計画はひとり親家庭のことであるが、一方で両親が揃いながらの貧困対策についても、今後どうしていくか考えなければいけない。

事務局：まずひとり親家庭を支援することで、色々な課題を抱える家庭を幅広く支援していけるものと考ええる。

会 長：親支援は経済的な支援で指標を立てることができるが、子ども支援は何かにて特化して行うことが難しい。そこで、社会として子どもを支援するということは、まちづくりの中に、子どもの参加や子どもの権利を積極的に位置づけていくことだから、箕面市の子ども条例の観点が重要となる。

委 員：アンケート調査の「子どものことで困っていること」という設問について、ここで「困っている」と回答している人は、子どものことで困っていると「自覚している」人だと思う。たとえば「特に悩みはない」を選択した人でも、子どもに無関心なだけかもしれない。また、虐待されて育った人は、その状況がその人にとっての「普通」となるので、子どもが虐待されて困っていると気づかないかもしれない。調査結果を見たときに、決めつけないように気をつけなければいけない。

会 長：NPO等から子どもの現状を聞き取るのも重要だが、子ども自身から聞き取るのも大事。他の自治体でもアンケートを行ったり、ワークショップを行ったりしているので、子どもの声を受け止め施策に反映させる視点や方法について、色々調べたり工夫をしてほしい。

この計画の策定期間についてはいつぐらいを考えているか。

事務局：今年度中に策定したいと考える。後日であっても、また何か気づいたら意見をもらえたらと思う。

会 長：最後に各委員から、第三次計画の策定に向けて、一言ずついただきたい。

委 員：子どもへの支援を中心とするのは大変難しいと考えるが、子どもの居場所づくりなどの部分で直接支援できることはもっとあると思う。青少年を守る会でも色々な団体と協力して、子どもたち全員を対象として、たとえば

遊びでも勉強でも何でもいい、何かできるような場所を作れたらいいと考えている。

委員：全員が満足する計画にするのは難しいと思うが、未来ある子どものためにしっかりとしたものにしてほしい。また、小・中学校は義務教育なので、子どもの状況をつかみやすいのではないか。学校全体を見ることのできる人がいればと思う。

委員：箕面で知人に箕面の子どもの貧困の話をする、「箕面に貧困があるのか」、「その家庭の責任では」といった意見をもらう。社会の理解や配慮が広がればいいと思う。

委員：子どもの貧困は、ひとり親家庭に限らずどの家庭にも共通する問題を含んでいる。子どもに直接届く支援ができたらと思う。

委員：世間では「子どもがまだ小さいときに離婚するなんて」という考え方が多く、親への批判も多い。家庭の事情は様々であると認識し、自分がそのような状況になったときに「支援されてもいいんだ」と思えるような環境づくりを、市民相互で考えることを並行して行いたい。
成果指標はどのように整理するのか。

事務局：現在検討しているところである。

会長：学校と家庭だけでは子どもの居場所として不十分という現状があるので、それ以外の居場所が必要。また、それに関連してスクールソーシャルワーカーなどの役割は大きいし、子ども支援に関する広報や啓発も大事となる。

「自立」とは、個人が他者や社会にうまく依存することによって成り立つもの。そうした依存を親の状態によって色々と制約されてしまうのが子ども。子ども自身が「しんどいと思ったらその現状を訴えていいんだ」と思えて、実際に支援が受けられる、そんな「まちづくり」が望まれる。

その他

今後のスケジュールを事務局より説明

○第3回子ども・子育て会議は、開始時刻を変更する予定。

○今後の進め方等については、会長と相談しながら決めていく。

会長：それでは、本日の案件が終了したので、会議を終了する。

Ⅲ 閉会